

令和2年10月1日から 子どもの予防接種が一部変わりました！



「ロタウイルスワクチン」が定期接種になりました

ロタウイルスワクチンは予防接種法に基づく「定期接種」の対象になりました。対象のお子さんは、無料で接種できるようになります。

ロタウイルス胃腸炎は、乳幼児に多くおこるウイルス性の胃腸炎です。多くは突然の嘔吐に続き、白っぽい水のような下痢を起こします。まれに重症化する場合もあるため、早期にワクチンで予防することが大切です。

<対象者>

令和2年8月1日以降に生まれた者

(それ以前に生まれたお子さんは、10月1日以降でも任意接種となってしまいますのでご注意ください。)

<接種の方法>

- ・ワクチンは2種類あり、2回受けるものと3回受けるものがあります。効果は同じです。
- ・初回の接種を生後2ヶ月から生後14週6日までに行います。
- ・2回目以降の接種は27日以上の間隔をあけて行います。

詳しい接種の方法については、赤ちゃん訪問の際に1人1人保健師からご説明します。お気軽にご相談ください。

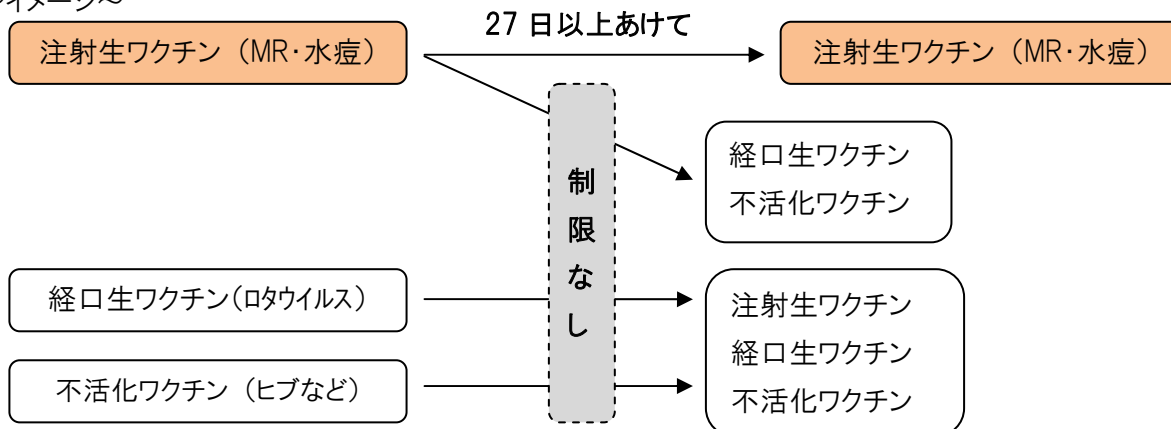


異なる種類のワクチンの接種間隔の規定が変わりました

ロタウイルスワクチンの定期接種化に伴い、接種が必要なワクチンがさらに増えることから、接種間隔の規定が改正されました。

- ・注射生ワクチンどうしを接種する場合は27日以上あける(これまで同様)
- ・他のワクチンの組み合わせについては制限を設けない(変更)

～イメージ～



※同じ種類のワクチン同士の間隔はこれまでとかわりませんのでご注意ください。

遅らせないで！ 子どもの**予防接種**と **乳幼児健診**



**お子さまの健康が気になるときだからこそ、
予防接種と乳幼児健診は、
遅らせずに、予定どおり受けましょう。**

予防接種や乳幼児健診は、お子さまの健やかな成長のために
一番必要な時期に受けていただくよう、
市区町村からお知らせしています。
特に赤ちゃんの予防接種を遅らせると、免疫がつくのが遅れ、
重い感染症になるリスクが高まります。

なぜ、予防接種や乳幼児健診を遅らせない方がよいの？

- 予防接種のタイミングは、感染症にかかりやすい年齢などをもとに決められています。
- 特に、生後2か月から予防接種を受け始めることは、お母さんからもらった免疫が減っていくときに、赤ちゃんがかかりやすい感染症（百日せき、細菌性髄膜炎など）から赤ちゃんを守るために、とても大切です。
- 乳幼児健診は、子どもの健康状態を定期的に確認し、相談する大切な機会です。適切な時期にきちんと乳幼児健診を受け、育児で分からないことがあれば、遠慮せずに医師、保健師、助産師などに相談しましょう。

予防接種や乳幼児健診に赤ちゃんを連れて行っても大丈夫？

- 医療機関や健診会場では接種を行う時間や場所に配慮し、換気や消毒を行うなど、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策に努めています。
- 予防接種はできるだけ事前に予約しましょう。一般の受診患者と別の時間や場所で受けられる医療機関もあります。
- 受診の前には、体温を測定するなど、体調に問題がないことを確認してください（※）。家に帰ったら、赤ちゃん、保護者とも、手洗いなどの感染対策をしっかりとしましょう。また、予防接種を受けた日もお風呂に入れます。

※体調が悪いときは、感染症を周りの人に感染させるおそれがあるので、予防接種や乳幼児健診に行くことはやめましょう。元気になったら、あらためて予定を立ててください。

新型コロナの流行で予防接種を受けそびれました。どうすればいい？

- 受けそびれてしまった場合は、できるだけ早く受けましょう。
- 新型コロナウイルス感染症の流行後に、外出自粛要請などの影響で予防接種を受けられなかった場合には、地域の事情に応じ、規定の接種期間を過ぎても接種できる場合があります。お住まいの市区町村にお問い合わせください。
- 子どもの予防接種は、決して「不要不急」ではありません。まだ接種期間内の方は、お早めに接種をおすすめください。

ご不明の点は、かかりつけ医や、お住まいの市区町村にご相談ください

※乳幼児健診については、感染の状況等を踏まえ実施方法等を変更している場合がありますので、お住まいの市区町村の母子保健窓口にお問い合わせください。

～もっと詳しく知りたい方へ～

予防接種スケジュール（国立感染症研究所）

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/component/content/article/320-infectious-diseases/vaccine/2525-v-schedule.html>

日本小児科学会が推奨する予防接種スケジュール

http://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=138

小さなお子さまがいらっしゃるみなさまに向けて、各分野の専門家からのメッセージを掲載しています。

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_10996.html

